

## 編集後記

ちょうど1年前、新型コロナウイルスが中国で発生して世界に拡散しつつあること、そして時を同じくしてコンピュータウイルス「Emotet」の感染も国際的な問題になっていることを紹介しました。あれから1年、残念ながら新型コロナウイルスの方は、国内では第3波が来襲、再び緊急事態宣言が発令されることになりました。けれども国際的な研究協力の結果、わずか1年の間に開発された新しいRNAワクチンの普及が開始され、わが国にも輸入、接種が開始されています。これは、従来の弱毒化ワクチンや不活化ワクチンなどと異なり、mRNA（メッセンジャーRNA：DNAのコピーで、その情報に基づいて体内でタンパク質が作られる）の機能を利用したもので、新型コロナウイルスが人の細胞に感染するときに使う特殊なタンパク質のmRNAを、脂肪の膜に閉じ込めてワクチンとして接種するもので、接種されると人の細胞の中では取り込んだmRNAから新型コロナウイルスのタンパク質が合成され、その特徴を免疫細胞が記憶して、本当のウイルスが侵入してきた時に攻撃して撃退するという仕掛けです。このタイプのワクチンの最大のメリットは、対象となるウイルスの遺伝子配列さえ判れば短期間に開発でき、改良も容易だということですが、分解しやすいので極低温で保管しなければならないという欠点もあります。当面は医療従事者、そして重症化しやすい高齢者からという順番で接種を進めるようで、その結果、感染が収束してゆくことが期待されます。

一方で世界中で猛威を振るっていたコンピュータウイルスの「Emotet」についても、1月末にユーロポール（ヨーロッパ刑事警察機構）は、国際的な合同捜査の結果、ウイルスのネットワークを制圧したと発表しました。8か国の治安当局等が協力して、ウイルスを拡散させるネットワークに侵入して制圧し、内部から活動を停止させたそうです。コンピュータウイルスを、これほどまでに制圧できたのは初めてのケースのようで、「Emotet」によるサイバー犯罪は収束に向かうとみられています。2つの『ウイルス』に共通しているのは、技術的なブレークスルーと国際協力です。厳しい状況ではありますが、人類の叡智を集約して取り組み、途は開けるということではないでしょうか。

春一番の風が吹き、日差しが日ごとに強まってゆくのを感じます。庭の鉢植えの隅に蒔いたガラス豆は無事に冬を乗り切りました。三寒四温の気候の中で、豆類など農作物の栽培準備を進めていただきたいと思います。（矢野 哲男）

---

---

### 発行

公益財団法人 日本豆類協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071  
FAX：03-5570-0074

### 豆類時報

No. 102  
2021年3月15日発行

### 編集

公益財団法人 日本特産農産物協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845  
FAX：03-3584-1757

---

---